

〈訪日旅行の現況〉

2010年に訪日外国人旅行者数を1千万人にするとの目標を掲げて2003年にスタートした「ビジット・ジャパン・キャンペーン」も、5年目となった昨年（2007年）の末には、過去最高の834.7万人を記録しました。そのうち中国人訪日旅行者数については、当初の44.9万人が94.2万人へと倍以上に増加し、訪日外客全体に占める中国の割合は11.3%に上昇しました。国・地域別順位では、中国がそれまでの4位からアメリカを抜いて3位に浮上するなど、明らかな成果が出始めています。

この中国人旅行者増加の背景には、2000年の訪日団体観光旅行制度のスタート以来、査証制度が緩和され続けてきたことなどがあると考えられますが、国際観光振興機構（6/27以降日本政府観光局）では、近年（2007年）の中国人観光客の増加要因について次のような分析を行っています。

《2007年訪日中国人増加要因》（2008.01.28 JNTO）

- ①好調な経済を背景に購買力が高まり、また、株高・不動産価格の上昇も続いて可処分所得が増加し、外国旅行に出かけられる層が拡大した
- ②日中国交正常化35周年を機にした各種イベントが中国で開催されたが、これに加え、旅行番組放映（上海一帯）や新聞広告など、各種ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）事業を繰り広げた結果、日本に対する関心が高まり、訪日旅行意欲を促進した
- ③定期航空便が拡充され、チャーター便が多数運航された ほか

《訪日外国人旅行者数の推移》

時期	訪日外客数	うち中国(大陸)	中国訪日団体観光査証制度等の変遷
2003年 (平成15年)	5,212千人	449千人	00年：2直轄市1省（北京市、上海市、広東省）が対象となり団体観光スタート 05年：中国全土が団体観光査証発給対象地域となる
2007年 (平成19年)	8,347千人	942千人	07年：中国にある全ての在外公館において、団体観光査証申請受理が開始される

〈富裕層の増加と海外旅行ブーム〉

中国では、2006年に「個人所得税自己申告法令」が施行されて以来、年収が12万円を超える個人については、管轄の税務機関に自己申告することが義務付けられました。2008年4月2日までの統計によると、全国の個人所得税自己申告者数は約163万人、うち上海市では23万8,000人が申告し、大連市でも前年比81.3%増の2万人余りが申告者（高収入層）入りを果たしています。全国ベースでも30%の伸び率となっており、中国の高収入層の拡大は著しいものがあります。（ジェット口通商弘報2008.5.9、6.4）参考：申告者平均年収は31万円（465万円 [1元=15円]）

また、世帯年収が6～8万円（90～120万円）以上の高学歴・高消費・高感度な層を「新富裕層」と規定して、その消費習慣やライフスタイルを研究している「H3（2006）」調査（新生代市場監視機構）によれば、「新富裕層」の19.2%は、既に海外旅行の経験があり、さらに将来1年の間に海外旅行の予定があると回答するケースが多いとの結果が出ており、海外旅行がますます身近なレジャーになりつつあることが見て取れます。（目的地別指数・香港40.3%、マカオ16.4%、タイ19.3%…日本9.0%等）

ここ、地方都市の大連においても、春節や労働節、夏休み等の長期連休前になると、香港、マカオ、東南アジア、韓国、日本などを目的地とする大量の旅行商品が新聞紙面を飾り、ヨーロッパやオーストラリアなどの1万円を超える高額商品が掲載されることも、すでに見慣れた状況になっています。（参照：記事1、記事2）

海外旅行を販売する中国の旅行社のホームページには、世界有数の観光地の旅行商品写真がずらりと並んでおり、かつて高額とされていた日本の「ゴールデンルート」（成田空港～三大都市圏～関空区間を巡る国際観光客定番のルート）を巡る商品が、リーズナブルに見えてくるほどのラインナップです。この旅行社のアウトバウンド責任者に電話で確認したところでは、大連発着の日本の「ゴールデンルート」商品は、既に毎週1回催行される長期定番商品であり、売れ行きは「とても好調」とのことでした。

《大連にある旅行社の訪日旅行送客状況の一例（2008. 5 聞取り）》

- ・毎週1回の定番商品の送客規模（平均催行人数）：35人前後/団
- ・長期休暇時（労働節及び国慶節の休暇 [1週間]）の送客規模：200人/週
- ※最小催行人数：16人/団

こういった身の回りの状況や統計を見渡すだけでも、富裕層が中国において確かに存在し、その数は急速に拡大を始めており、海外旅行がもはや特別なイベントではないという層が確実に存在していると感じざるを得ません。

＜中国人の海外旅行は買い物旅行？＞

かつて（2006年）、富山県で中国遼寧省の旅行社・報道機関を対象としたファムトリップ（下見招聘旅行）を実施し、視察先として中古家電と新品家電を扱う県内の「激安店舗」を案内するも、まったく興味を示していただけなかったということがありました。理由を尋ねたところ、中国人観光客にとって、中古家電は安くとも興味の対象とはならず、またその店舗の新品に対しても、「中古でないか」という懸念が拭えなかったため、旅行商品には組み込みがたいと感じたとのことでした。

ショッピング好きという中国人の国民性は、今日では世界中に知られるところですが、中国の旅行社によると、中国人にとっての日本ツアーのイメージは、「本物」の「高品質（最新）の商品」が、「比較的安い値段」で購入できる貴重な機会であるということだそうです。言い換えると、「日本ツアーは、本物か偽物かを心配しなくても、高品質の商品（＝日本製品）が、悪徳業者にばらばらに、安心して安く買える機会である」というイメージが魅力になっているわけです。

当然ながら、中国人観光客は、遠い外国にまで来て自国製の商品を購入することはまず望みませんし、「日本ブランド」に強い期待・信頼感をもって来ています。その期待・信頼に応え、「日本では日本の商品を提供する」あるいは「富山では富山の商品あるいは富山らしいサービスを提供する」という、ごくあたりまえのサービスを確実に積極的に打ち出していくことが、観光の魅力になるのではないかと考えます。

富裕層が拡大して海外旅行が一般化し、かつては高かった日本国査証取得のハードルも今日ではそれほどではなくなっています。さらに、元高もあって購買意欲はますます旺盛。今や誰もが、海外でも簡単に現金引出しや代金決済ができる「銀聯カード」という便利な道具を手にし、「ゴールデンルートの次は日本のどこへ行くか？」と行き先を考えている中国人は増えつつあるといいます。日本の地方が中国人観光客を呼び込むための対応を行うべき時期は、すでに到来していると感じます。

＜記事1：2008年夏休み旅行広告(抜粋)＞ 出典：『新商報(大連地方新聞)』2008.7.1

【最左列のみ参考翻訳】

- ロマン日本6日グレードアップ版 6,680円
- 感動九州5日間の旅 6,980円
- 韓国ソウル/済州4飛5日 4,680円
- 非凡なるタイ・シンガポール・マレーシア 5,880円
- ハネムーンバリ島 6,550円
- オランダ・フランス・イタリア・スイス10日 13,500円
- ドイツ・フランス・イタリア・スイス・パチカン11日 14,500円
- オーストラリア/ニュージーランド特価12日 11,800円

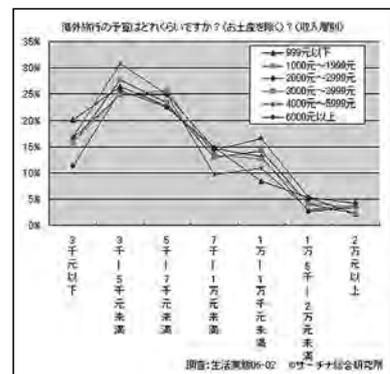
＜記事2：海外旅行予算関連記事＞

海外旅行予算：3000-5000元の間が最も多い【出典：中国情報局ニュース2007/07/13】

レジャー・エンタメに関する消費者意識調査2007

●海外旅行の予算はどれくらいですか？（お土産を除く）

全体で見ると、「3000-5000元未満」が最も多く、次いで「5000-7000元未満」、「3000元以下」の順である。収入層別に見ると、最も収入の高い月給6000元以上で「10000-15000元未満」がわずかに増え、逆に「3000元以下」が他の収入層に比べてやや少なくなっている。他は大きな差異は見られない（グラフは本調査結果を基に作成）。



【富山県大連事務所注】

中国（大陸）では、香港・マカオも海外旅行に含み、大連発着の旅行の場合、価格は2,000～4,000元程度となります。